資料１

前回までの振り返り

懇談会の目的

懇談会の目的

部活動の地域移行に限らず、部活動の更なる適正化を含めた「本市のこれからの部活動」を検討していく。

部活動の現状や課題等を共有し、部活動に関する意見を伺い、今後の取組の参考とする。

これまでの懇談会

これまでの懇談会

第１回　令和５年１１月２８日（火）

主な内容

（１）国の動向と部活動の意義、他都市の状況
（２）本市の部活動の現状
（３）本市のこれまでの取組
（４）本市における今後の進め方

第２回　令和６年３月１９日（火）

主な内容

（１）部活動アンケートの結果（単純集計）について
（２）「休日の部活動の地域移行」拠点校の実践研究報告
（３）関係団体への意見聴取の報告
（４）令和６年度の予定について

主な意見

【全体的なこと】

・現在の状況も踏まえた上で、**１０年後の姿を考えていく**必要がある。
・部活動は誰のためのものなのかを考えたい。
・部活動の地域移行は難しいが、部活動を考える、よいきっかけとしたい。

【「地域移行」について】

・「地域移行」ありきではなく、**部活動そのものをしっかりと検討していく姿勢は大切**である。
・世間では「地域移行」という言葉が一人歩きしており、親も子どもも外部から来る指導者や費用負担のことなど不安に感じている。

【その他】

・生徒、保護者、教員の思いが若干ずれている。
　生徒は、部活動を**楽しみたい派とうまくなりたい派の二極化**
　親は、スキルよりも**人格形成を重視**する傾向
・各団体にも指導者はいるが、**教員以外の指導人材の育成が課題**だ。
・部活動の意義と活動実態との乖離を感じる。

部活動アンケートの結果
（単純集計）

部活動アンケートの結果（単純集計）

1 アンケートの概要

○実施期間　令和５年１１月１６日（木）から１１月３０日（木）まで
※生徒と教員は１２月８日（金）まで

○対象　生徒：市立中学校の全生徒（29,832人）
保護者：市立中学校の全保護者（29,832人）
教員：市立中学校の全教員（1,589人）　※管理職・産休者・育休者・休職者は除く

2 実施の状況

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
生徒	29,832	23,395	78%
保護者	29,832	13,040	44%
教員	1,589	1,364	86%

3 回答者の年代

○生徒

中学１年	中学２年	中学３年
35%	33%	32%

○保護者

30代	40代	50代
8%	68%	23%

○教員

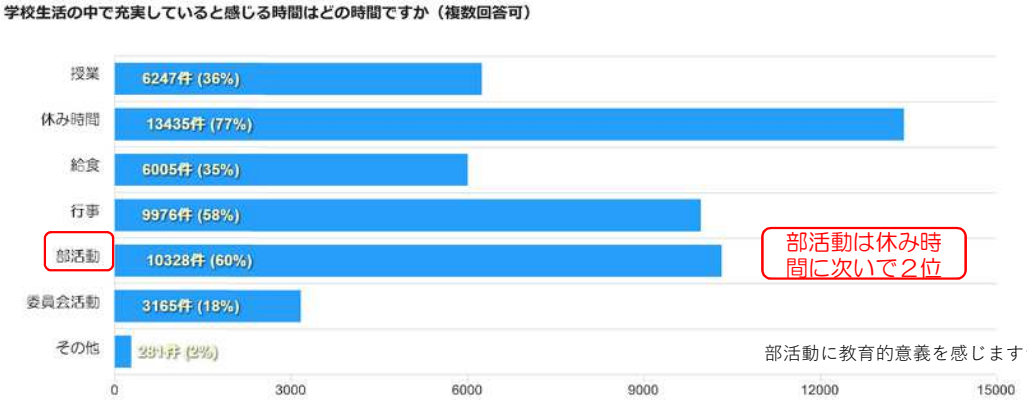
20代	30代	40代	50代	60代
25%	29%	23%	16%	7%

※小数点以下第１位を四捨五入しているため，内訳の合計は必ずしも100%とならない。

部活動アンケートの結果（単純集計）

4 主なアンケート結果

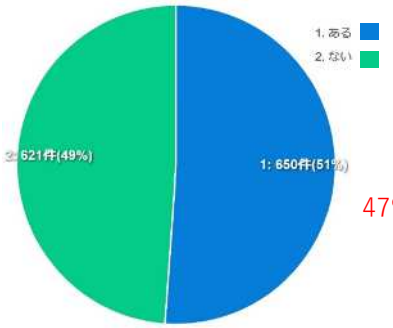
（1）学校生活で部活動が占める位置について



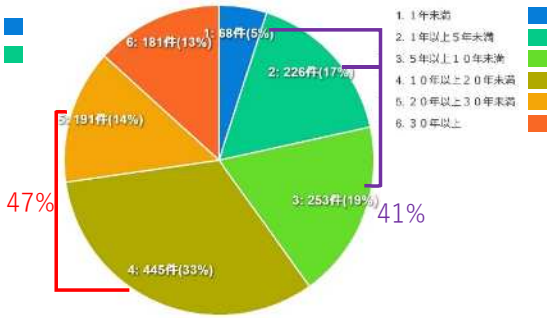
部活動は休み時間に次いで２位

（2）顧問教員の競技経験等について

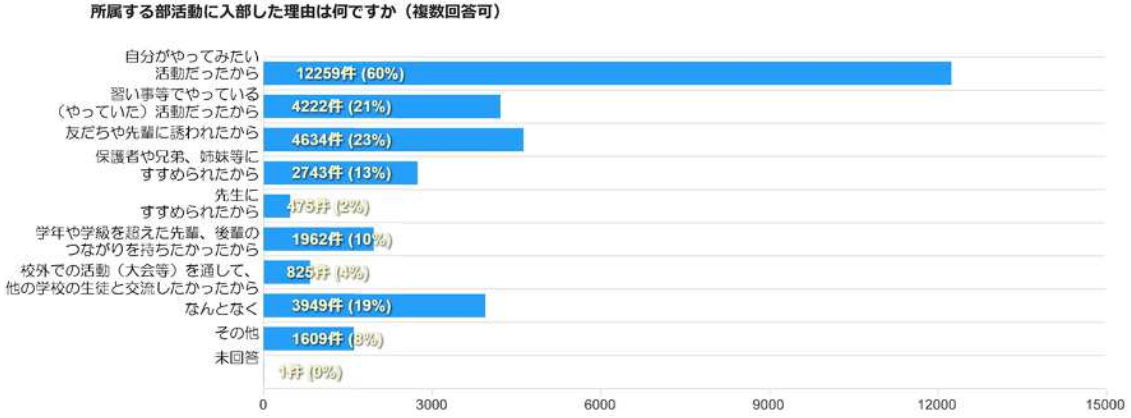
担当している部活動の競技・活動経験（教員）



教員経験年数（臨時的任用期間を含む）



（3）入部の動機について



（4）部活動の教育的意義について

部活動に教育的意義を感じますか（教員）

教員の89%が部活動に何らかの教育的意義を感じると回答した。

感じる・どちらかといえば感じるを選んだ人が重点を置く指導（複数回答可）

生徒同士の人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上を目指す（７５%）
生徒が礼儀やマナーなど、社会で必要なことを身に付けられる（７５%）

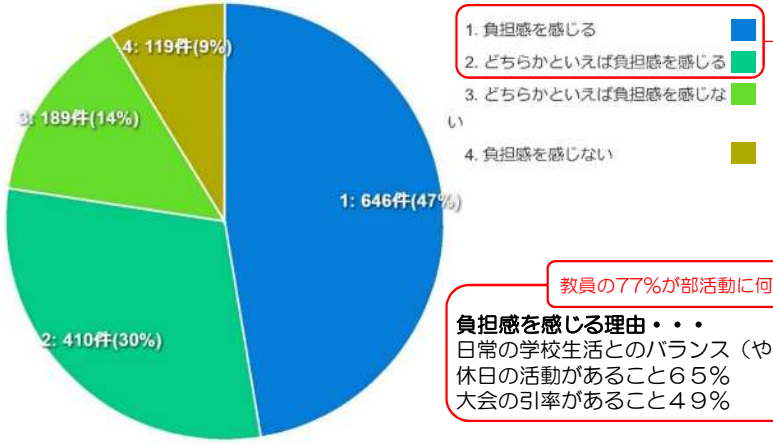
感じない・どちらかといえば感じないを選んだ理由（自由記述）

無理やりやらされていて主体性を感じない
メリットもあるがデメリットの方が大きい
親にやらされていやいや続けている生徒もいる

部活動アンケートの結果（単純集計）

（５）部活動においての教員の負担感について

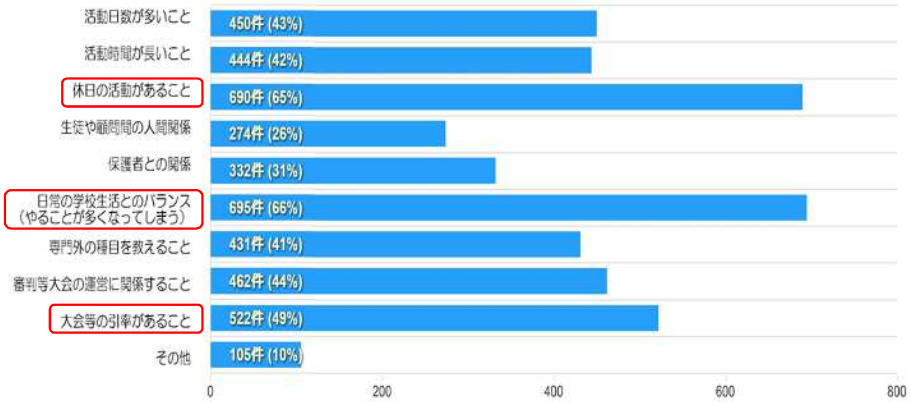
日常の部活動において負担感を感じますか（教員）



教員の77%が部活動に何らかの負担感を感じると回答した。

負担感を感じる理由・・・
日常の学校生活とのバランス（やることが多くなってしまう）６６%
休日の活動があること６５%
大会の引率があること４９%

負担感を感じる理由は何ですか（教員）



（６）部活動を通して得たことについて（生徒のみ）

部活動を通して得たことは何ですか

選択肢	割合
体力・技能が向上した	70%
規律や礼儀作法が身についた	47%
スポーツや文化芸術の楽しさを味わえた	46%

（７）部活動で身に付けて欲しいことについて（保護者のみ）

お子さんに部活動を通して主に身に付けて欲しいことはなんですか

選択肢	割合
目標に向かって努力する姿勢	77%
思いやりの心や協力する姿勢	63%
体力・技能	61%

保護者が身に付けて欲しいことと
生徒が得たものが一致した

（８）部活動での心配事や悩みについて

部活動で困っていることや心配なことはありますか（生徒）
お子さんの部活動に関し、保護者として主に心配なことを教えてください（保護者）
指導する上で困っていることは何ですか（教員）

生徒		保護者		教員	
勉強との両立	50%	**部活動と学業の両立**	**51%**	**部活動指導にあてる時間的余裕**	71%
特にない	26%	疲労の蓄積	35%	競技の専門的な指導力の不足	55%
疲労がとれない	23%	友だちや先輩・後輩との関係	30%	顧問間の協力体制	29%

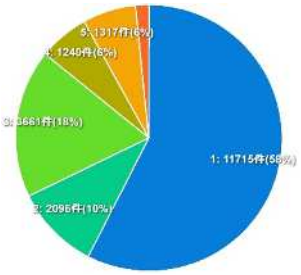
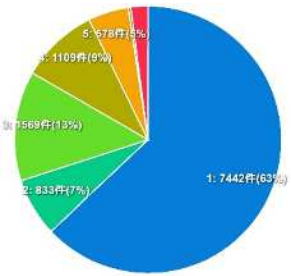
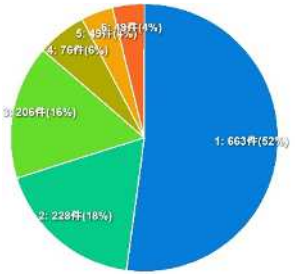
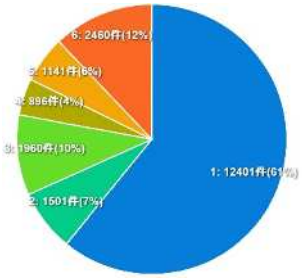
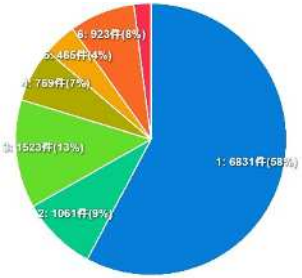
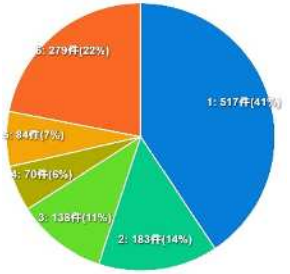
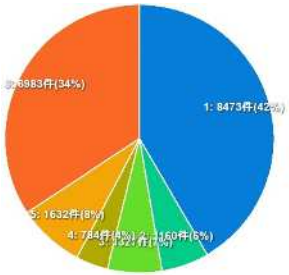
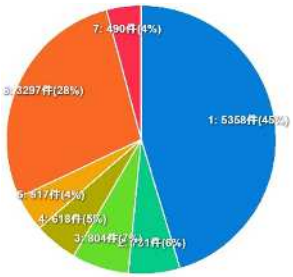
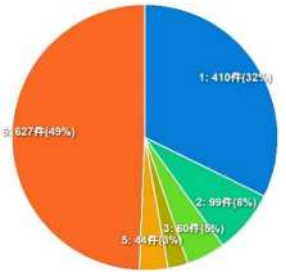
平成２８年度調査時と同様、困っていることや心配なこととして、「勉強との両立」「疲労の蓄積」を挙げる人の割合が多かった

部活動アンケートの結果（単純集計）

（９）現在の活動日数について

現在の活動日数についてどのように感じますか

凡例　1.ちょうどよい　2.多い　3.どちらかといえば多い　4.どちらかといえば少ない　5.少ない　6.なくてよい　7.わからない（保護者のみ）

	生徒	保護者	教員
平日			
休日			
朝練			

平日については、「ちょうどよい」と感じている割合が生徒５８％、保護者６３％、教員５２％と多い。
休日については、「ちょうどよい」と感じている割合が生徒６１％、保護者５８％、教員４１％と多い。
朝練については、「ちょうどよい」と感じている割合は生徒４２％、保護者４５％と多く、教員は、なくてよいが４９％と多かった。

部活動アンケートの結果（単純集計）

（１０）今後の部活動について

今後、部活動はどのようになって欲しいと思いますか

生徒		保護者		教員	
初めての人でも気軽に参加できるような楽しむことを中心とした活動をしたい	36%	先生の負担が減るとよい	50%	教員以外にも指導できる人が増えるとよい	58%
今のままでよい	34%	専門的な指導が受けられるとよい	49%	大会等の引率を保護者に任せたい（現地集合等）	58%
気軽に参加したいときに参加できるとよい	24%	指導する人が増えるとよい	42%	地域の協力を得て、教員がいなくても活動できるようにする	47%

生徒は気軽な参加を希望する意見が多い。保護者は教員の負担軽減と専門的な指導を希望しているが、教員は教員以外にも指導できる人が増えるとよい、引率を保護者に任せたいという声も多かった。

５ 今回の集計で見えたもの

生徒

・部活動に入部した理由は、やってみたい活動だったという声がある一方、友だちや先輩に誘われたという声もある。
・部活動を通じて得たことは「体力・技能が向上した」「規律や礼儀作法が身に着いた」と「スポーツや文化芸術の楽しさを味わえた」

保護者

・心配な点は「部活動と学業との両立」「疲労の蓄積」
・「教員の負担軽減」への理解、「生徒が専門指導が受けられる体制」の確保のニーズが高い

教員

・教育的意義を感じている割合は高い一方で負担感を多く感じている（時間的余裕がないから）
・朝練の廃止と専門的人材の確保、大会の引率の協力等を求めている

共通

平成２８年度調査時と同様、困っていることや心配なこととして、「勉強との両立」「疲労の蓄積」を挙げる人の割合が多かった